

鬼怒中学校 生徒指導通信 No. 8

平成30年2月16日（金）

宇都宮市立鬼怒中学校

梅花の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、3年生も卒業まで残りわずかとなりました。今年度も、3年生が学校をしっかりとリードして、鬼怒プライドを学校全体に広げてくれました。1, 2年生もあと1か月半で進級し、2年生は鬼怒中の最上級生、1年生は先輩という立場になります。その準備を整えていけるよう、今年度の振り返りをするとともに、進級への自覚を高めて一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

今回は、「鬼怒 PRIDE」という言葉と、自己決定の場の大切さについて触れてみたいと思います。

○鬼怒 PRIDE という言葉について

鬼怒中学校では、平成22年に創立30周年を迎えました。当時のPTA会長が、30周年記念事業実行委員長を務め、「鬼怒プライド 30th Anniversary—新たなる飛躍をめざして」というフレーズを提案し、記念事業を進めました。そのフレーズの中にある「鬼怒プライド」という言葉を、当時の生徒指導主事の先生が使うようになりました。5年前には前校長先生が着任され、当時の鬼怒中生の様子を見て、「鬼怒 PRIDE」の具体的な方向性として、「もっと優しくなろうよ」という言葉を示されました。その後酒井校長先生が着任し、この二つの言葉を鬼怒中の方針としてさらに学校全体に浸透させ、現在に至っています。

「鬼怒 PRIDE」とは、夢や目標を持ち、その実現に向けて真っ向から挑戦したり、粘り強く努力したり、あきらめないで頑張ったりすることを指します。そこから学ぶ達成感や充実感から、何にも代えがたい素晴らしい宝物が得られます。もう少し具体的に言うならば、学校や学年、学級や友達、家族やその他誰かのために、何かできる行動をとることです。これが「もっと優しくなろうよ」ということです。私たち人間は、自分の名声や自分だけの喜び、自分の財産などのためだけに考え、行動しがちです。それはそれで、人間のやる気や意欲の源になり、大切なものではあると思います。しかし、誰かのために考え行動することに喜びを感じられるようになることは、精神的に大人になることであり、喜びを誰かと共有できるということであり、素晴らしい宝物を持つということだと思います。

どうか、鬼怒中生の皆さん、自己実現に向けて努力するとともに、誰かのために力を注ぐことに喜びを感じられる人間を目指し、「鬼怒 PRIDE」のあふれた学校を作っていきましょう。

保護者や教員、地域の皆さん。子どもたちの鬼怒 PRIDE を育むために、我々大人にできることは何でしょうか。それは子どもに「鬼怒 PRIDE」の模範を示していくことです。仕事や家庭生活、子育てなどに悩みながら一生懸命奮闘している大人の姿は、子どもたちに最も身近な手本です。あきらめず、子どもや誰かのために尽力する強く優しい背中を、子どもたちに見せていこうではありませんか。

優しくされた子どもは、すぐには私たちに優しさを返してくれないかもしれませんが、しかし、その分きつとどこかで誰かに優しさを注ぐようになります。すると優しさが次の人へ次の人へと広がり、やがてそれは回りまわって私たちのところに帰ってくることになるのです。

いつか優しさが帰ってくることを楽しみに、少しずつ誰かへの「優しさの投資」をしてみませんか。

○自分で決めること

自己決定の場をもつこと、人は責任感を持ち、準備をし、挑戦から多くのことを学びます。つい私たち大人は、子どもに失敗をさせないようにと先回りして、進む道を勝手に決めてしまうことがあります。しかし、今この時期に自分で決め、選び、多くの挑戦と失敗を乗り越えていく経験をしなかったら、この先の社会生活でたくさんの困難を乗り越えていけるでしょうか。本当の失敗とは、失敗を恐れて挑戦をしないことなのです。

何かに夢中になることは、子どもにとって特権であり、最高の宝物であると聞いたことがあります。自分が興味関心を持って、挑戦し、困難にぶつかった時、そこで自分の本当の姿を初めて知ります。自分の弱さや今の限界、足りないところ。しかし、そこであきらめずに努力することができれば、本当のたくましさや自信などを付けることができると思います。

そして、自分で選び、決めるということは、自分で責任をとる覚悟を持つことにもつながります。すると、「準備をすること」「努力すること」「工夫すること」の大切さも知るようになります。挑戦は、まずはレベル1くらいから始まり、その中で得た経験を糧に、さらにレベル2、3、4…と少しずつ大きな挑戦へと進んでいきます。

それを温かく見守り、励まし、そっと支えていくのが我々大人の役割だと思います。

じっと我慢をして。

○ノーチャイムデーを実施して

12月22日（金）、1月29日（月）と、ノーチャイムデーを実施しました。目的は、「時間を意識して時計を見ながら生活すること」を実践させるためです。テーマは「自ら進んで」ということで、朝の8時15分以降は、一切チャイムが鳴りませんでした。

どうなったと思いますか？なんと、生徒たちは、早め早めに行動し、先生も学級委員も「席について」などの指示をほぼすることなく1日が終わりました。振り返りチェックシートでは、「8割以上の生徒が自ら進んで行動できた」答えていました。ある生徒からは、「やってよかった、また時々やってください。」などの声も聞かれました。先生たちも、模範となるよういつもより緊張感を持って生活できました。学校が、一つの方向に向かって取り組んだことも、いい効果につながったと思います。

今回は、2月27日（火）に実施予定です。

○うれしいニュース

生徒指導通信No.7で、雪道でスリップした自動車を押して助けた生徒が4人いるとお伝えしました。しかし、その他にも1年生女子2名が、別な場所で同じようにスリップした自動車を押してあげていたという情報が入りました。

雪が積もった渡り廊下でも、「先生、俺手伝うよ！」と言って、雪かきを手伝ってくれる生徒がたくさんいました。スコップも自ら運んで、片付けまでしてくれました。

鬼怒 PRIDE が、あっちこっちに広がっています。すでに「優しさの投資」は何倍にもなって帰ってきているようです。



宇都宮市立鬼怒中学校	028-661-6337
生徒指導担当	野口 幹